今回の研修では口腔機能実地指導料をはじめ
口腔機能管理の考え方や評価方法、口腔機能低下症、口腔機能発達不全症などについて学びました。

口腔機能管理は日常生活に欠かせない機能を維持改善し健康寿命の延伸や健全な成長発達を支えるために行います。

現在では虫歯治療や歯周治療の重要性は広く知られてますが、口腔機能管理についてもより多くの方に知っていただくことが大切だと感じました。

口腔機能低下症については、早期発見と早期介入の重要性を学びました。検査結果をもとに患者様へ現状やリスクを分かりやすく説明し、口腔機能の維持・改善のためのトレーニングに前向きに取り組んでいただけるよう支援することが重要だと感じました。

また、口腔機能発達不全症では18歳未満が対象となるため、本人だけでなく保護者の方への理解と協力を得ることが重要であると学びました。「発達不全症」という言葉に不安を感じる方もいると思うため、病気ではなく機能の発達に関する症状であり、適切なトレーニングや習慣改善によって改善が期待できることを丁寧に説明していきたいと思います。

今回の研修を通して、歯科衛生士には患者様一人ひとりの変化に気付き、適切な声かけや指導を行いながら継続的に支援していく役割があることを改めて感じました。今後は研修で学んだ知識を日々の診療に活かし、患者様の口腔機能の維持・向上に貢献していきたいと思います。